ニューギニア系言語の話者は敬語を使うのか？

ーアメレ語の場合ー

野瀬昌彦 (滋賀大学)

1. はじめに

本研究では，パプアニューギニアで話されるニューギニア系(Trans-New Guinea)言語の一つであるアメレ語（Amele; Roberts 1987）を取り上げ，アメレ語が敬語の用法を持つのかどうかを，調査した．その結果，アメレ語が文法的な敬語法を持たない代わりに，語彙的な方法で敬意を示すとともに，パプアニューギニアの公用語であるトクピシンからの借用語を利用したり，またはアメレ語ではなくトクピシン(Tok Pisin：パプアニューギニアの共通言語であるクレオール言語)を話すことで敬意を示したりすることを発見した．本稿では，アメレ語(Amele)の敬語の貧弱さや用法に関して，社会言語学的な考察を加えることを試みる．

アメレ語はパプアニューギニアのニューギニア島の北西部にあるマダン州で話されるニューギニア系の言語のひとつである．アメレ語の話者はおよそ 6000 人前後であるが，話者のほとんどがトクピシンとのバイリンガルである(Ethnologue の記述に基づく)．Nose (2020)によれば，話者の少なさやバイリンガルという状況であるが，アメレ語の話者を自身の言語を比較的しっかりと維持しているため，絶滅に瀕した言語ではない．

本稿では，第 2 節で先行研究のレビューし，第 3 節でアメレ語のデータでもって，敬語形の有無や丁寧表現のデータを観察する．第 4 節でアメレ語に敬語形がない理由やその代替方式に関して議論し，結論をまとめる．

2. 先行研究のレビューとパプアニューギニアの言語状況

本節では，本研究の目指すところのニューギニア系言語の敬語表現を探るという目的に関連した先行研究をレビューする．敬語研究の先行研究では，ヨーロッパの言語に見られる”tu/vous”（以下 T/V と記す）の使い分けと，アジアの言語に見られる文法形式としての敬語形を取り上げる．加えて，本研究が取り上げるアメレ語やパプアニューギニアの言語状況について紹介し，アメレ語の調査の目的を明らかにする．

2.1. 敬語，ポライトネス

敬語に関して先行研究の大きな一つ目は，ヨーロッパ系の言語に観察される 2 人称の人称代名詞の形式（単数と複数）を使い分けである．以下の(1)にいくつかのヨーロッパの言語に見られる人称代名詞の使い分けによる敬意の相違の例を示す(Brown and Gilman 1960; Meyerhoff 2015).

(1) a. フランス語：
　　2 人称単数：tu
　　2 人称複数（敬意あり）：vous
　b. ハンガリー語：
　　2 人称単数：te
　　3 人称単数（敬意あり）：ön, maga

例えば，フランス語の T/V の使い分け（親しい場合は 2 人称単数の tu で呼びかけ，目上の人や初対面では 2 人称複数の vous を使用する）は有名(Brown and Gilman 1960)であるし，インド＝ヨーロッパ系言語ではないが，ウラル系のハンガリー語では 3 人称の単数形が敬意を持つ点で，少し異なる．

もう一つの敬語研究は，敬意を意味する文法形を持つ言語に関するものである（滝浦 2005）．日本語や韓国

語，タイ語などのアジアで話される言語に観察される．日本語では，尊敬語や謙譲語，丁寧語が存在し，動詞「見る」であればその尊敬語は「ご覧になる」のように形式が完全に異なる．例を(2)に示す．

(2) 日本語の敬語形：動詞「食べる」：
　　・尊敬語：召し上がる，おあがりになる，食べられる
　　・謙譲語：いただく，頂戴する
　　・丁寧語：食べます

日本語には尊敬語（相手をたてる），謙譲語（自身がへりくだる），丁寧語（通常より丁寧）の大まかに 3 種類の敬語形が存在する（他にも形容詞や名詞に付加する敬語形があるが，本稿では触れない）．動詞「食べる」に対して，相手を尊敬する「食べ-られる」のラレル形や丁寧語の「食べ-ます」のマス形のように，動詞形に文法的な敬語形を付加することで，敬語の意味を加えている（さらなる考察は，滝浦 (2005）を参照）．

2.2. パプアニューギニアの言語

ニューギニア島及び周辺の地域は，世界で最も言語的な多様性に富んだ地域である．その地域には 1000 語近くもの言語が話され，そのうち 400 言語以上がニューギニア系に分類される(Foley 2000)．以下の図 1 にニューギニア島の言語分布の大まかな状況を示す（なお，この分布はニューギニア系以外の言語も含まれる）．

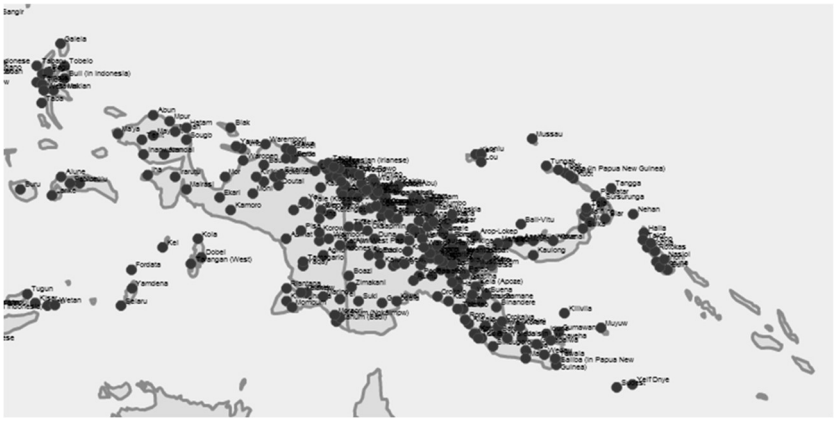

図 1：ニューギニア島の言語分布（引用元：WALS Language Viewer を改変）

例えば，ニューギニア島の東半分がパプアニューギニアであるが，その中でも北部に位置するマダン州は，面積としては台湾島や日本の九州の広さに相当する．そしてそのマダン州内には 270 言語もの現地語が話されている．では，そのマダン州で話されるニューギニア系の 4 言語（アメレ語，ワスキア語，コボン語，ウサン語）が語彙や文法で相違しているかを簡単にまとめたのが，以下の表 1 である．これらの言語はお互いに隣接しているわけではないが，人称代名詞，動詞，数詞ともにほとんど形式的な類似性がないことがわかる．このようにお互いの意思疎通は完全に不可能な言語ではあるが，語順(SOV, Noun-Adj, Noun-Numeral)や複雑な動詞形態論，近い過去と遠い過去形の区別など，文法的ないくぶんかの共通性がニューギニア系の言語の特徴である．

表 1：ニューギニア言語の文法と語彙の違い：

	I, you, he/she	**to go / to come**	**one, two, three**
Amele	ija, ina, uqa	nuga/ hoga	osol, leis, ijed
Waskia	ane, ni, nu	namer/ tair	itoketa, itelala, iteltoke
Kobon	yad, ne, nipe	ar/ au	nöbö, igwo, igwo aŋ nöbö
Usan	ye, ne, wo	isu/ di	gâri, ombur, ombur gâri

本研究では，そのようなニューギニア系の言語の中からアメレ語を選んだ．アメレ語の文法は Roberts (1987) によって記述されていることに加えて，本研究の著者（野瀬）が 2006 年以来調査している言語である．本研究

では，2023 年 8 月にアメレ語が話される村（セイン村）で調査した事項に基づいていている．アメレ語の敬語法を調べるに当たり，目上の人にどう話すのか，そして知らない人，親しくない人にどう話すのかを調査した．

3. アメレ語のデータ

本節では，以下の三点，(1)ヨーロッパ言語に見られる T/V の使い分けによる敬意, (2)アジア言語に見られる動詞形に付加する敬語形，(3) 命令形の丁寧形を調査したデータを示す．

はじめに，アメレ語にヨーロッパ言語に見られる，T/V 型の人称代名詞を使い分けることによる敬意の付加に潰え調査した．以下(3)にまずアメレ語の人称代名詞を示す．アメレ語は統語論おいて主語となる人称代名詞は省略されることはなく，かなりの割合で義務的に出現する．

(3) アメレ語の人称代名詞：

１人称単数	Ija	１人称複数	Ege: 双数: ale
２人称単数	Ina	２人称複数	Age
３人称単数	Uqa	３人称複数	Age/ Ege unu

(3)において，3 人称単数形の uqa は「彼・彼女」両方を指し示すが，「それ」は意味せず，人間（および比喩的に人間を表すもの）にのみ使用される．1 人称複数形は一般的な「我々」を示す ege と，「我々二人」を表す双数形の ale が存在する．2 人称複数形と 3 人称複数形が同じ形式 age で示される．ただし，3 人称複数形の別の形式で ege unu という形式もあり，これは 1 人称複数形の ege を持つことから，「（我々を含む）全員」という意味を表す．そして，アメレ語の人称代名詞の 2 人称単数 ina と 2 人称複数 age, 3 人称単数 uqa が敬意の有無で対立するかどうかについては，そのような対立はないとのアメレ語話者の確認ができた．よって，フランス語の T/V のような用法はアメレ語には存在しない．つまり，アメレ語には人称代名詞に敬意を表すことはない．

次に，動詞形に敬語形を持つかの検証である．アメレ語の動詞形態論には人称と数に屈折する以外に，時制，アスペクト，スイッチリファレンスの形式が組み込まれることがある．しかし，動詞形態論の中に敬語を表す要素が組み込まれることはない．なぜなら，アメレ語には文法的に敬語形が存在しないからである．

最後に命令形の丁寧形について観察する．まず，アメレ語の命令文の例を以下(4)に示す．

(4) アメレ語の命令形：動詞”hoga” (来る)，”nuga”（行く）

a. (Ina) hona!　「（2 人称単数の君に向かって）来い」
b. (Age) hoia!　「（2 人称複数の君たちに向かって）来い」
c. (Ina) Nuga!　「（2 人称単数の君に向かって）行け」
d. (Age) beleige!　「（2 人称複数の君たちに向かって）行け」

アメレ語では，命令形においても，命令相手（つまり単数の人か，複数の人か）を明示し，(4a)/(4b)，(4c)/(4d)のような区別をする．その際，命令形の動詞の前に，人称代名詞を置くことができる．ただし，この(4)には，日本語の「来い・来てください」のような敬意による差異はないことが判明した．また，命令形でも英語の”let’s do”に相当する勧誘形の例を以下(5)に示す．アメレ語の勧誘形では，文頭に ke という要素を加えた上で，命令形の動詞形も異なるが，敬意の意味は付加されない．

(5) アメレ語の勧誘形：

通常の命令：Eeeb jaga!　「檳榔（betel nuts）を食べろ」
勧誘形：Ke eeb jeiga　「檳榔（betel nuts）を食べましょう」

最後に否定命令形（禁止形）の例(6)を見る．否定命令形では要素 ain が英語で言うところの”don’t”に相当する．禁止形でも敬意の意味が含まれない上に，否定命令では，勧誘形の標識 ke が出現しない．

(6) アメレ語の否定命令形：

通常の禁止：Jaas ain jesen!　「たばこ，禁止，吸う；たばこを吸うな」
みんなに対して禁止：Jaas ain jowain!　「みんな，たばこを吸うな」
禁止勧誘形：Jaas ain jobon　「たばこを吸わないようにしましょう」

その上で，どうしても敬意を表したい場合，どのように言えるのかをアメレ語話者に聞いた．その結果の無理矢理表す命令形の丁寧形が以下(7)である．

(7) 命令形の丁寧形：

・アメレ語ではなく，トクピシンを使用する：Please kam!　「来てください」
・アメレ語：Odi ain hoga!　「来てください」

命令形を丁寧にするには，通常の命令形に要素"odi ain" (please don't)を付加することで可能となる．ただし，(7)のような形式は，アメレ語話者は使用することはないとのことである．というわけで，アメレ語は，敬語を持たず，丁寧に話すような用法は，無理矢理言おうと言えば言えなくもないが，特に丁寧に話したいのであれば，アメレ語ではなく代わりにトクピシンを使うということである．

4. 議論と結論

本稿では，アメレ語が敬語を持たない理由に関して議論する．前節の観察から，アメレ語には，フランス語に見られるような T/V のような人称代名詞の使い分けによる方策も，日本語に敬語形のような用法も存在しないことが判明した．これは，ニューギニアの村社会は比較的平等な仕組みで構成されているため，わざわざ敬語を使う必要性がないという可能性がある．実際，目上の人や偉い人に敬意を込めないのかという点に関して，アメレ語話者に尋ねたところ，日本語の「社長」や「先生」のような称号を使用するとのことである．

社会言語学的な要因であるが，ほとんどすべての話者がアメレ語とトクピシンのバイリンガルである点である．例(7)でも示したように，どうしても"please"のようなお願い表現を使いたい場合，アメレ語ではなく，トクピシンにコードスイッチする．これは，アメレ語に敬語がないため，その代替として，トクピシンを使用するのである．アメレ語話者は，聞き手がアメレ語話者かどうかによって，アメレ語話者もしくはアメレ語コミュニティの内部にはアメレ語を使用し，非アメレ語話者やコミュニティの外部（もしくはさまざまな言語話者がまじわる職場や町の店）ではトクピシンを使用する(cf. Lee 2023). つまり，知らない人や親しくない人と話すときや，公式の場などではなす場合，トクピシンで話すわけである．結果的に，話し手と聞き手の心理的距離を遠くすることで，敬意を表すことができるわけである(Zwicky 1974).

謝辞　アメレ語のデータに関しては，Neret Tamo さんおよび彼の家族の皆さんに感謝します．本研究（の一部）は，科学研究費補助金（20K00541，代表：野瀬昌彦）の助成を受けたものである．

参考文献

- Brown, R., & Gilman, A. (1960). The pronouns of power and solidarity. In: T.A. Sebeok (ed.), *Style in Language*, MIT Press, 253-276.
- Foley, W. A. (2000). The languages of New Guinea. *Annual review of anthropology,* 357–404.
- Lee, C. L. (2023). Address terms by Singapore Chinese in a multilingual context. *East Asian Pragmatics*, 8, 309-332.
- Meyerhoff, M. (2015). *Introducing sociolinguistics.* Taylor & Francis.
- Nose, M. (2020). Chapter 8: Persons and Address Terms in Melanesia: A Contrastive Study, In: T. Okamura & M. Kai, (eds.). *Indigenous Language Acquisition, Maintenance, and Loss and Current Language Policies*, Hershey, IGI Global.
- Roberts, J. R. (1987). *Amele*. Croom Helm.
- 滝浦真人. (2005). 『日本の敬語論ーポライトネス理論からの再検討』. 大修館書店.
- Zwicky, A. (1974). "Hey, Whatsyourname". *CLS* 10: 787-801.